

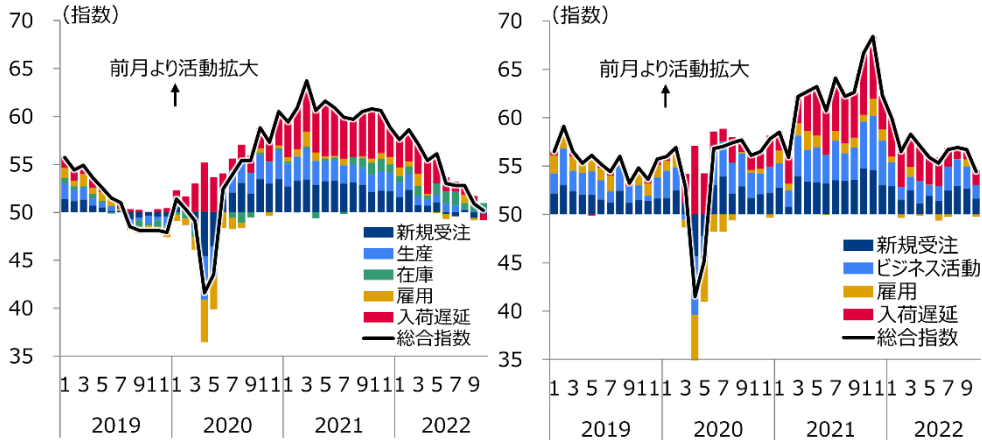
米国

ISM景況指数 (2022年10月)

製造業は活動拡大・縮小の境目の50割れ目前、企業活動に減速感

政策・経済センター  
浅井優汰  
03-6858-2717

1 ISM景況指数 (左：製造業、右：非製造業)



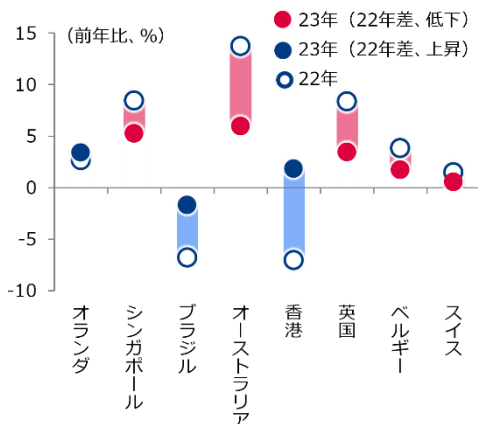
注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。  
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

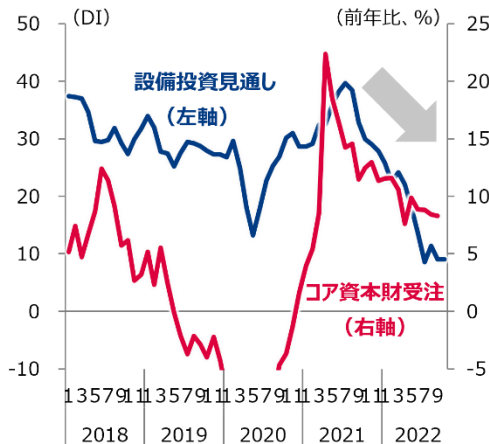
- 22年10月のISM製造業景況指数は50.2と2カ月連続で低下した(図表1)。経済活動の拡大・縮小の境目である50割れ目前となっている。非製造業は54.4と製造業と比較すると高水準だが、先月から約▲2ptの大幅低下となった。
- 製造業の項目別では、新規受注が49.2と先月から2pt程度上昇したが、境目の50を2カ月連続で下回り、需要の弱さが示された。サブ項目の輸出受注が46.5と3カ月連続で50を下回っており、大幅利上げによるドル高に加え、欧州・中国経済の低迷が輸出収益を悪化させている。
- 非製造業の項目別では、需要の強さを示す新規受注が56.5、ビジネス活動が55.7と先月からそれぞれ4pt弱、3pt程度の大幅な低下となり、非製造業でも活動の増勢鈍化の兆しが示された。また、入荷遅延は56.2と4カ月ぶりに上昇した。

2 米国の貿易黒字国の2023年輸入額伸び率予測



注：米国の22年4-6月期の貿易黒字額上位8か国を示す。  
出所：U.S. Census Bureau, WEOより三菱総合研究所作成

3 コア資本財受注、設備投資見通し



注：コア資本財受注は22年9月までの値。設備投資見通しは製造業の6カ月先の見通し。数値は3か月移動平均した値。  
出所：米国商務省、フィラデルフィア連銀より三菱総合研究所作成

基調判断と今後の流れ

- FRBによる大幅利上げが続くなか、製造業では50割れ目前と減速感が強まっている。非製造業はサービス消費の続伸を背景に堅調に推移しているが、生産者物価の高止まりや根強い供給網の混乱が重しとなり、増勢は鈍化基調にある。
- 先行きは、FRBの大幅利上げによる借入コストの上昇や需要の減少が押し下げ要因となり、製造業を中心に企業活動は減速を続けると見通す。
- 世界経済の低迷が、主に輸出企業の活動を一層鈍化させるだろう。実際、米国の貿易黒字国上位8カ国の内需の強さを示す、23年輸入額伸び率予測をみると、うち5カ国で22年と比較し伸び率が低下すると見込まれる(図表2)。
- 設備投資に先行するコア資本財受注の前年比伸び率は、依然高水準だが、21年入り後は低下している(図表3)。また、製造業の6カ月先の設備投資見通し(地区連銀公表)は、21年中盤から22年入りにかけてピークアウトして以降急落し、直近ではコロナ前を下回る水準で推移している。今後、設備投資の増勢鈍化が企業活動を一層下押しする恐れがある。